

令和7年度千葉港振興協会他港視察研修報告

本年度の他港視察研修は、17名（うち事務局1名）の参加を得て、11月20日（木）～21日（金）に新潟港をメインに実施しました。

以下、新潟港の視察の結果を報告させていただきます。

1 新潟港について

新潟港には西港区（人流が中心）と東港区（物流が中心）があります。本州日本海側で最大のコンテナ取扱量を誇り、地政的に中国や韓国に近い立地が強みとなっています。

鉄道・道路網も整備され、近県や首都圏とのアクセスも充実しています。

新潟港は、本州日本海側最大の港湾としてその地位を維持しており、特に新潟東港は、国際的な物流拠点としての役割を果たし、

港の周辺には多くの企業が集積しています。さらに、新潟港は観光の拠点としても重要で、佐渡金山が世界遺産となった佐渡島への航路や、クルーズ船の寄港が港のみならず周辺地域経済に大きな影響を与えています。



新潟港全景

2 新潟港（東港）の概要

新潟港は本州日本海側最大の外貿コンテナ取扱港であり、北東アジアとの国際物流の拠点として重要な役割を担っています。現在、釜山・上海・青島など主要港と結ばれています。

- ・歴史的背景：1869年に開港された五港の一つで、1995年には日本海側唯一の中核国際港湾に指定されました。
- ・地理的優位性：日本海側に位置し、中国・韓国・ロシアとの玄関口として機能しており、これらの国の総領事館も所在します。
- ・交通インフラ：高速道路は、関越、北陸、上信越、磐越、日本海東北道など5方向に展開しており、鉄道は羽越本線、信越本線、北陸本線などが接続しています。
- ・産業集積：LNG基地を中心に、発電・化学・製造業が港周辺に集積しています。

3 国際物流等の現状

- ・令和5年（2023年）の外貨コンテナ取扱量は、154,630TEUで本州日本海側最大です。
- ・定期航路では、釜山航路（週3便）、中国・釜山航路（週4便）、中国航路（週2便）、フィーダー航路（週2便）の他ロシア極東航路（運休中）などとなっています。
- 釜山港や上海港は国際物流のハブとしての役割を果たしており、そこから世界各地の港までを繋ぐ物流ネットワークを構築しています。
- 国内では、新潟港から内航フィーダー航路が充実しており、この航路を利用することで、新潟で生産された製品（金属加工物など）を阪神方面や九州方面を経由して外国へ運ぶことが可能です。また、物流2024年問題に対して、長距離トラック国内輸送の代替として船舶輸送を利用する「モーダルシフト」が進められており、これにより物流の効率化と環境負荷の低減が図られています。
- ・輸出入では、国・地域別では、輸入は中国（上海港および華南地域）からが多く、東南アジアからの輸入も増加しています。品目別では、輸出は「軽工業品」（紙やパルプ）や「特殊品」（再利用資材）が中心で、輸入は「金属加工品」（金属製品や電気機械）や「雑工業品」（資材、日用品など）が中心です。輸入と輸出の割合は約2:1で、輸入が多い状況です。

4 施設整備と将来構想

(1) 東港区の開発について

東港区は昭和44年（1969年）に掘込港として整備されました。掘込港とは、船舶を安定して受け入れ、安全に荷役作業ができるよう、内陸へ人工的に掘り込んだ方式の港のことです。この歴史ある港は、新潟県の経済発展に重要な役割を果たしてきました。

(2) 東港区の施設について

本州日本海側で最大のコンテナターミナルが立地しており、これにより、大量の貨物を効率的に取り扱うことが可能となり、国内外の物流拠点として機能しています。

国内最大級の火力発電所も位置し、LNG（液化天然ガス）船が定期的に接岸して燃料を供給しています。この発電所は地域のエネルギー供給に欠かせない存在です。

(3) 冬季の積雪対策について

新潟港の特徴の一つとして、積雪対策があります。東港区では、海水を散布しコンテナヤードに積もった雪を融雪する装置が整備されています。この装置により、冬季でもスムーズに物流が行えるようになっています。また、コンテナに積もった雪を自動的に削り取るゲートも設置されており、効率的な雪対策が講じられています。

(4) 東港区の今後の展望について

新潟港の東港区は、物流とエネルギー供給の両面で重要な役割を果たしています。これからも、地域経済の発展と持続可能な物流の実現に向けて、積極的な取り組みを続けていきます。さらに、オン・ドック・レール構想の実現や、大型船の受け入れ能力の向上など、今後も新たな挑戦に取り組んでいきます。

(5) 利活用のための施策について

新潟港では充実したインセンティブ制度を設けており、荷主側のコスト削減に大きく貢献しています。トライアル補助から継続補助まで、全国トップクラスの支援制度を提供しています。

また、新潟港の利用促進のために、様々な施策を展開しています。例えば、新たに航路を開設する際の支援や、物流業者との連携を強化しています。これにより、新潟港の利用が増加し、地域経済の活性化に寄与しています。



（株）新潟国際貿易ターミナルからの説明



参加者の皆様

○終わりに

千葉よりスケールが大きいCYの見学や、豪雪地ならではの除雪作業の大変さなどを知ることができました。説明や見学にご対応いただいた（株）新潟国際貿易ターミナルの廣井常務様、渡辺業務課長様に紙面をお借りして感謝申し上げます。